

失敗への恐怖が起業意思に与える影響： システマチック文献レビューによる研究課題の探索

阿部俊光（あべ としみつ）

法政大学大学院デザイン工学研究科 システムデザイン専攻
アントレプレナーシップ・デザイン研究室

1. はじめに

このたびは学生優秀発表賞をいただき、誠に光栄です。当日発表をご覧いただいた参加者の皆様、貴重なご質問をいただいた方々に御礼申し上げます。また本研究を指導してくださった姜理恵教授、そして助言をいただいた研究室のメンバーに感謝いたします。

2. 私の経歴

私は早稲田大学商学部を卒業後、6年間の実務経験の後に、米国ボストン郊外にある起業家教育に特化したバブソン大学（Babson College）でMBAを取得。その後外資系ヘルスケア企業複数社で15年以上ITマネジメントの仕事をしつつ、博士課程に入り、社会人学生として仕事と研究の両立に取り組んできました。仕事もしながら学会発表や博士論文の執筆に取り組むのは大変ですが、仕事とは違う刺激を受け、充実した時間を過ごしています。

3. 所属研究室について

私の所属する法政大学大学院デザイン工学研究科・アントレプレナーシップ・デザイン研究室（姜理恵教授）は、起業家特性と起業プロセスをテーマに、こどもや中高生、大学生、女性などを対象にした起業家教育、大学発ベンチャーを担うアカデミックアントレプレナーの研究、急成長するスタートアップ、アクションラーニングの研究など幅広い研究を行っております。5名の社会人博士後期学生と若い修士、学部学生、研究員やスタッフ、総勢30名の研究室です。

そのような幅広いテーマを扱う研究室において、私は、社内起業家、アカデミックアントレプレナー、

学生起業家などが起業家精神を発揮する際に、どのようなことが障害となるか、起業家精神を発揮したいが、うまく発揮できないジレンマに焦点を当てた研究を行っており、今回の失敗への恐怖に関する研究発表はその研究の一部を構成するものになります。

4. 研究発表の内容

起業という未知でリスクの高い取り組みに対し、人は恐怖を感じることがあります。失敗してはいけない、失敗することが怖いというような感情です。結果として起業意思が弱まり、起業活動に結びつかないことになってしまいます。そのため、そもそも失敗への恐怖とは具体的にどのようなものなのか、またどうすればそれを軽減することができるのかといった研究関心から、今回の研究を始めました。

この研究では、論文データベースScopusを利用し、失敗への恐怖に関するキーワードで論文を抽出し、14文献について調査を行いました。その結果、失敗への恐怖に関する研究に見られる3つのテーマが浮かび上がってきました。第一は、「失敗への恐



図1 研究室合宿の様子 中央が姜理恵教授、右から3番目が筆者

怖は起業意思にどう影響するのか？」です。多くの調査において失敗への恐怖は起業意思に対してネガティブな影響を与えるという結果が出ていますが、どのように影響するのかといった点については定説となるようなモデルがない状況です。第二は、「失敗への恐怖とは何か？」です。失敗への恐怖は、ただ恐怖を感じるというだけでなく、金銭的な損失に対する恐怖のほか、対人関係上の恐怖、自己イメージに対する恐怖などに分解されることが示唆されています。第三は「失敗への影響の低減」についてです。成功した起業家によるロールモデルや、家族・友人の支え、また個人の回復能力（レジリエンス）も低減につながるとされています。

こうして先行研究を網羅的に見てみると、失敗への恐怖を研究するうえで、どのような研究テーマが蓄積されており、今後どのような研究余地があるのかが見えてきます。また今回取り上げた文献14件はすべて定量研究であったため、インタビュー調査などによる定性研究も行うことにより、失敗への恐怖に対する理解をさらに深められると考えています。

5. 今後の研究計画

起業意思に対する影響を与える要因としては、失敗への恐怖だけでなく、本人が起業に対してどのような印象を持っているか、周囲の環境（社会や家族・友人・同僚など）が起業に対してどう思っているか、また自己肯定感があるかどうかなども関係しているとされています。今後の研究では、これらがどのように起業意思に影響を与え、また起業活動につながっていくかを調査・分析していく予定です。起

業活動といっても会社を設立することだけが起業活動ではありません。中には大企業や中小企業で新規事業の創出や新製品開発に取り組む人もいます。起業家精神の実践として、イノベーター的な行動、先駆的な行動、リスク・テイキングの3つが重要とされています。起業意思からそのような起業家の行動の発揮につながるプロセスに着目して研究を進めていきます。

6. 今後のキャリア

かねてより大学教員の道を目指しておりましたが、このたびご縁があり2024年4月から新潟の開志専門職大学・事業創造学部にて准教授として着任する予定です。これからは自分自身でアントレプレナーシップの研究を進めながら、学生への指導にも取り組んで参りたいと思います。専門職大学では、企業内実習やビジネスモデルコンテストなど特徴的なカリキュラムや活動がありますので、自らの実務経験や研究成果を教育の現場でも活かしていきたいと考えています。

7. 最後に

経営情報学会全国研究発表大会には3年連続で参加し、発表もさせていただきましたが、毎回、他の発表者による多様なテーマや研究手法から学ぶことが多かったように思います。このような発表の場をご提供いただいていることに感謝しつつ、今後も学会への参加を続けてまいりたいと思います。また、査読論文投稿にも取り組みたいと思います。